

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	保育園年長児への環境教育「森のムッレ教室」
団体名	こどもの根っこを育てる会
市担当課名	こども未来部 保育課
事業の目的	自然に触れ、自然を身近に感じるといった野外における自然体験は、自然（環境）保全行動を起こす動機を形成するだけでなく、知的好奇心や集中力、創造力などをも形成します。生涯にわたる人格形成の重要な時期である幼児期の5、6歳児（年長児）に対して、自然体験型環境教育を行うことで、自然を身近に感じることとおよび保全行動する環境人の育成を目的としています。また、親子一緒に自然体験をすることで、自然体験の効能およびその理解を広げることを目的としています。
事業の実施内容	<p>○森のムッレ教室の開催（平成26年9月18日～12月16日）</p> <p>4つの保育園（小室保育園、名細保育園、高階第三保育園、神明町保育園）の年長児を対象に、各園3回ずつ森のムッレ教室を開催。</p> <p>●1回目の教室テーマ「土に戻るゴミ、戻らないゴミ」 公園のゴミを拾ってきてもらい、そのゴミが土に戻るゴミか否かを問いかける。自然遊びのマナーを身につけると共に、虫探しを楽しみながら、土に戻るための虫の役割や物質循環について学ぶ</p> <p>●2回目の教室テーマ「生態系ピラミッド」 虫探し・葉っぱ拾いをしながら生態系ピラミッドを作る。植物・生物どれ一つかけても、生態系は崩れてしまうことを遊びを通して学び、人間も含め自然は共生しながら成り立っていることを学ぶ</p> <p>●3回目の教室テーマ「葉っぱ観察、木の顔探し」 ルーペで冬芽や葉の観察をし、観察の楽しさを体感。</p> <p>また各園年中組に対しては、秋の保護者会に、親子参加の体験ムッレ教室を実施。親子で、ルーペで観察をしたり、自然の借り物ゲームをしたり、秘密の袋ゲームをして、自然物を扱った五感を刺激するゲームを中心に自然体験をした。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 幼児むけ環境教育の準備および開催</p> <p>川越市の役割 開催する4園の保育園の選定。（7月の園長会議にて呼びかけ）。自然観察がしやすい公園づくり、幼児むけ環境教育の普及</p>
事業の成果	<p>園児ら全員が、自然の中で遊ぶときの3つのお約束を覚え、意識するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大きな声を出さない （自然の中は動物や鳥もいて、脅かさないよう配慮の行為）</li> <li>2. 草や花は根っこから抜かない （植物も生きているから命を大切にすの気持ち）</li> <li>3. 土に戻らないゴミは捨てない （ポイ捨て禁止マナー、動物が間違っって食べて死んだらかわいそうという思いやりの気持ち）</li> </ol> <p>・保護者の方の中には、森のムッレ教室への理解と好評価をいただきました。また、実際に森のムッレ教室に関心を抱き、観察しに来た保護者もいました。</p> <p>・年中組の親子ムッレ教室では、遊具のない自然の中での遊び方を保護者自身が知ることができたと好評で、また参加したいとの声もいくつもいただきました。</p> <p>・担任の保育士も、日ごろから自然への関心が高まっているようです。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>現在の協働事業の選考スケジュールは、4月～7月。本来自然観察（特に子供たちが大好きな虫探し・虫遊び）には最適な季節であるが、その季節を活用できません。現在の選考スケジュールを考えると、本活動のような自然体験は、虫が少なくなっていく秋・冬にしか開催できず、自然の教材が少なくなるうに、子供が風邪で体調をわるくしやすい季節にもなり、開催延期等考慮することが必要になっております。出来れば、前年度中に選考し、補助金活動期間を新年度4月から開始できるようにしていただきたいです。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>森のムッレ教室（環境教育）の活動は今後も続けたいと思っておりますが、本団体会員が直接開催するのではなく、保育士自身が日ごろの保育の際に取り入れるよう、保育士研修を行い、実施する保育士をサポートする体制にしていきたいと考えています。</p>

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	プレママつながり事業
団体名	NPO法人川越子育てネットワーク
市担当課名	健康づくり支援課
事業の目的	昨今は地域との関わりを持たずに出産を迎え、退院後、子育てに悩むが頼れる人が身近におらず、また、インターネットに依存し、氾濫する情報に翻弄される現状がある。妊娠中においては、地域とのつながりに必要性を感じづらく、産後に孤立を招く一因になっている。そこで、当団体は、産前から産後の切れ目の無い支援を実施するために2年間様々なアプローチでプレママ（妊婦）を対象とした事業を行ってきたが、需要は感じるものの「プレママに情報を届ける難しさ」が見えてきた。この協働事業では、官民一体となり、様々な方法で妊婦とそのパートナーに、まず地域に関心を持たせ、事業に参加することで、妊娠中から「つながっている」という安心を得てもらうことを目的とする。
事業の実施内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) プレママ（妊婦）とプレパパ（パートナー）を対象に講座を企画・運営（年4回実施） 第一弾・第三弾：マタニティ・ヨガ with パパ+先輩ママパパ赤ちゃんとの交流会（年2回実施） 第二弾・第四弾：安産と母乳の話+交流会（年2回実施）</li> <li>2) 情報発信 広報・ポスター・チラシ、団体HP、ツイッターを活用しプレママパパに情報を届けた。</li> <li>3) 産院・地域企業・商店などへの告知協力の呼びかけ 産院をはじめ、駅構内やコンビニ、書店等の店舗へポスター掲示協力を依頼した。</li> <li>4) プレママパパのニーズ調査 アンケートやヒアリングを実施等を実施しニーズ調査を実施した。</li> <li>5) 産前産後の切れ目のない支援へつなげる 産前から地域へつながっているという安心感を得られ、産後の支援へとつながられた。 また、次年度先輩ママパパとしての協力を呼びかけ、良い循環の仕掛けづくりをした。</li> </ol>
事業実施時における市との役割分担	<b>市民活動団体等の役割</b> ① 企画の立案と運営 ② 産前から産後への切れ目のない情報発信
	<b>川越市の役割</b> ① 事業の信頼性の担保 ② 広報、母子手帳配布時等の情報告知への協力
事業の成果	本事業の成果は以下の4つが挙げられる。 ①プレママ・プレパパの地域へのつながり作り ②産前産後の切れ目のない支援の実施 ③官民連携による出産・子育てを応援するという風土づくり ④夫婦で安心して出産・子育てを迎えるためのイメージ作り 協働事業により、事業の信頼度の向上や広く告知ができ、前年度までの自主事業時より参加人数が格段に増えた。内容については、プレママだけを対象とせず、プレパパも一緒に参加できる内容に工夫した点は、夫婦で地域で子育てをしていくという意識付けになり、夫婦の絆づくりにも繋がった。4回開催した全てのアンケート結果で「非常に良かった」「良かった」の感想だった。特にプレパパと先輩パパとの交流はとても話が盛り上がり、出産と子育てを具体的にイメージでき、「また開催してほしい」との声も上がっていた。義母の参加もあり、「親子の子育て観のギャップを埋める機会となった」との感想も聞いた。プレママだけでなく、プレパパやご家族の満足度が高かったこともうれしい結果となった。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	対象者が日曜日の開催が参加しやすいことから行政職員さんの休みの日に開催となってしまった。その負担を減らすためにも担当職員さんが数名いらっしやると、より場の雰囲気や内容などを理解してもらえると感じた。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	産前から産後まで切れ目のない支援の必要性はますます高まっていくと思われる。補助金事業で繋がりができた企業・店舗等に告知協力を依頼し、またスポンサーや女性団体を募集するなどして事業の継続を図りたい。内容によっては、参加費の徴収も考えたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域の仲間づくり・たすけあい活動
団体名	かすみ野たすけあいの会
市担当課名	高齢者いきがい課
事業の目的	超高齢社会下で、地域で、誰もがいつまでも元気で暮らして行けるために、「地域での仲間づくり、助け合い活動」を実践し、地域福祉の推進に寄与する。
事業の実施内容	<p>①ふれあいサロンの実施          実施日：月1回 参加者：60～70名 送迎付き          内 容：学習性（包括の講話）、健康体操、皆さんの出し物（主体性・娯楽性）、弱者優先性（送迎など）の5原則プログラムで毎回実施。</p> <p>②春のお花見と秋のバスハイク          実施日：10月27日          参加者：68名（要介護者46名、スタッフ22名【1対2介護の体制】）          内 容：車いすを積んだリフトバスと小型観光バスで小諸・軽井沢を観光する屋外サロンを実施。</p> <p>③オレンジカフェ          実施日：毎月1回第2木曜の2時間半 参加者：約20名          内 容：4月から包括かすみ共催事業として認知症カフェをスタート</p> <p>④健康吹矢クラブの発足          実施日：月1回 参加者：約20名          当初カフェの充実（月2回）をめざしたが、認知症予防活動として「いつまでも無理なく楽しめるスポーツ」健康吹矢クラブの立ち上げを先行することにした。2カ月の準備指導期間を得て27年1月スタート、会場確保が困難で月1回の例会として実施。</p> <p>⑤上記の仲間づくり活動と併行して、高齢者の見守り助け合い支援活動を実施。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割          地域住民による心の通うコミュニティづくりの推進。</p> <p>川越市の役割          コミュニティづくりの推進に係る教育宣伝活動。地域包括支援センターの活動にかかる財源とマンパワーのバックアップ強化。</p>
事業の成果	<p>①ふれあいサロンの実施          毎回のように新規加入者があり、受付登録者は約200名（町内全世帯の2割強）。高齢者の友達関係づくりに寄与。包括による毎回の講話等で、包括や介護制度が高齢者にとって身近な存在になってきた。</p> <p>②オレンジカフェの実施          開始半年を経て認知症家族の参加が増えつつある。（すでに3名が他界）現在認知3世帯と単身高齢者等10名程度がスタッフ10名と茶菓子で団らんとコーラスを楽しんでいる。包括が認知症関連の話しなどを毎回行っている。定着してきた。</p> <p>③健康吹矢クラブのスタート          当自治会館使用の卓球等のスポーツ同好会は11あるが、高齢化で廃部や救急車を呼んだが入院死亡した事例も出た。高齢者の健康保持のスポーツとして健康吹矢を始めた所以です。道具類整備を本会で負担し、高齢者が気軽に参加しやすくした。</p> <p>④見守り助け合い活動          上記の活動に並行して、本会は高齢者の24時間登録制見守り、助け合いを実施してきたが、今年度は緊急救護時にも必要となる3.8m脚立の整備を進めた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>①高齢者住宅のため、仲間づくり事業にも世代間交流、支援者ボランティアの若返り（60歳代以前の世代に）が課題。</p> <p>②かすみ野自治会も高齢化に対応した事業展開を進める機運になったので、その関係強化を進める。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	無償性の近隣事業であるから、自治会等近隣関係団体の連携強化を諮って効果的に進めていきたい。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	自然にやさしい 福田田んぼ活動
団体名	福原ファームクラブ
市担当課名	農政課
事業の目的	日本人の「食」を支える「田んぼ」に次世代を担う子どもたちやより多くの市民が関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に、一般消費者に対して「田んぼ」の重要性をアピールする。
事業の実施内容	福田地区において、「田んぼ」の実情を観察し、米の収穫作業を体験する。田んぼの周りの環境を観察して米の収穫だけではない「田んぼ」の役割を理解し、次世代に残せる農業を考える。 ●9月20日(土)田んぼオリエンテーリング、観察会【一般参加者12名】 ●9月28日(日)稲刈り、観察会【一般参加者19名、団体会員参加者41名】 ●10月5日(日)レンゲ種蒔き(※雨天により中止) ●12月20日(土)餅つき、参加者交流【一般参加者5名、団体会員参加者16名】
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・米の収穫作業だけでなく、田んぼを観察することで田んぼの果たす役割を認識させる。 ・農業に対する理解を深め、地産地消を消費者に促す。
	川越市の役割 ・広報誌の掲載(イベント情報での掲載ではなく、協働事業であることが一般の人に分かり参加者が増えるような掲載)
事業の成果	申し込み参加者は7家族でした。予定より少ない人数であり、また、土曜・日曜の設定ですべての日程に参加していただくことができませんでした。自然を相手にした野外での企画は天候に左右されるため、効率性等を考えると「この辺りの日程」を企画せざるを得ないので、「レンゲの種まき」が経験できなかったのは残念です。 しかし、稲刈りは天候に恵まれて全家族が参加・体験出来ました。アンケートでは次回4月からの「田植え」への参加希望もあり、継続して出来そうです。秋からの参加者が次年度は春から関わっていただくことで、ある程度の広がりが見込めると思います。 子どもが大きくなると、毎土曜・日曜日の習い事が増えて、このような親子一緒に体験型活動には参加が難しくなりますが、一般消費者の子どもの原体験として必要な事と確認出来ました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働提案事業として計画する上では、今年に準じた「稲刈り」が中心の計画となります。決定時期との関係からすると、募集時期は今年同様になる為、事前の準備として、「田んぼの観察」プラス「用水路の魚類の観察」を「他団体」と協力して報告出来るようにしておく必要がある。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	農業者と協力する組織の立ち上げを図り、継続できる限りは続けて行く予定。 若い世代を育てる長期の計画が必要。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越百景絵画展児童・生徒の部第1回展
団体名	川越美術協会
市担当課名	文化スポーツ部 美術館
事業の目的	川越の未来を担う子供たちに、郷土の風景や伝統行事に関心を持たせるため。
事業の実施内容	<p>○市制施行90周年記念事業として選定された川越百景をモチーフにした平面作品を、市内在住・在学の児童・生徒を対象に公募 【平成26年7月～11月30日】</p> <p>○審査会で審査した入選入賞作品200点を川越市立美術館アートホールに展示 【平成26年12月17日～24日】</p> <p>○川越百景絵画展作品集の制作 【平成27年1月】</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 企画、運営、人材派遣、資金調達、事務局
	川越市の役割 会場提供、作品の受付、管理、インフォメーション、広報活動
事業の成果	<p>会期1週間であったが、入場者数を1,099名数えた。また、アンケート回収数は市内166、市外23の計189部であった。（別表第一参照）</p> <p>子供たちは小学校低学年から中学校3年生まで多くが参加し、出品総数311点（小学生231点、中学生80点）であった。</p> <p>描かれた題材（モチーフ）は、「時の鐘」が77点、「川越祭り」が29点、「菓子屋横丁」が21点とりあげられていた。人気の高い観光名所や伝統行事、身近にある神社仏閣、伝統的建築などが絵画（版画を含む）として多く描かれた。</p> <p>アンケートの自由記述欄を見ると、次回も参加したい、子供たちの発想の豊かさに感動したなどあり、初期の目的はほぼ達成されていることを感じた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	担当職員の平常勤務に支障を及ぼさないように、極力勤務時間外に設定し、準備段階の会議を綿密なスケジュールを立てて実施し打ち合わせてきた。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	経費削減に努め、自助資金で運営可能であれば継続したい。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	第10回復活！唐人揃いー朝鮮通信使ー多文化共生・国際交流パレード
団体名	川越唐人揃いパレード実行委員会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	江戸時代に川越氷川祭礼で町人たちが行っていた朝鮮通信使の仮装行列「唐人揃い」を復活し、朝鮮通信使の善隣友好の精神を現代に生かすと共に、川越の文化遺産を紹介する。また在日外国人との交流を通じて多文化理解を深める。
事業の実施内容	日時 2014年11月9日(日) 12:00~15:30 場所 蓮馨寺及び連雀町~札の辻(一番街・大正浪漫夢通り) 内容 開会式 パレード(22団体 約500名参加) パフォーマンス(一番街の3ヶ所で) 閉会式
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の企画・運営・会計・関係部署との連絡など
	川越市の役割 広報(チラシ・ポスターの配布など)、通行止め機材の提供、川越小学校体育館の使用許可など
事業の成果	今年のパレードは10回目ということで、前日の「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」(市民会館で開催)と合わせ、韓国・釜山から舞踊団が参加し、いろどりを添えてくれました。また、朝鮮通信使を通じて日韓の大学生を交流させようという「ユース通信使」の学生たちも初参加し、日韓交流に一役買ってくれました。その他、地元川越の2団体が初参加し、楽しい充実した多文化共生と国際交流を実感させるパレードになりました。 また、今年も釜山文化財団から代表理事をはじめ舞踊団を含めて25名が訪れたばかりか、朝鮮通信使縁地連絡協議会(縁地連)に加盟している全国の市町や団体・個人、さらに韓国・釜山からも30数名の見学者がありました。埼玉弁護士会と交流を続けている韓国の仁川弁護士会の人たち20数名も見学したり、韓国のKBS放送がワールドニュースでパレードを放映するなど、川越のPRと日韓・日朝間の友好に少しでも貢献できたのではないかと考えています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	来年は協働事業3年目になります。私たちが加盟している「朝鮮通信使縁地連絡協議会」(縁地連)と韓国の釜山文化財団が一緒になって「朝鮮通信使を世界記憶遺産に」と活動をしています。今年全国交流会で「川越唐人揃い」は注目度も高まり、意義も大きいと思います。来年も引き続き協働事業として川越市と協力して進めて行ければと考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	市民や企業・団体からの協賛金でまかなえるようなパレードをめざします

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越シニアカレッジ「ふるさと塾」
団体名	川越シニア大学『小江戸塾』
市担当課名	文化スポーツ部文化芸術振興課
事業の目的	この講座は、生涯学習ボランティアとして、公民館や学校での体験学習支援活動に関わり、子どもたちに知識・技術・知恵を伝承する人材育成のため、川越の「歴史・文化・自然」等を学習し、あわせて仲間づくりをおこなうものです。
事業の実施内容	<p>この講座は、川越に関する著名な先生方を講師に迎え、基礎学習を行い続いて受講生主体のグループ活動を実践するものです。</p> <p>① 期間・回数：平成26年7月9日～12月10日 12回</p> <p>② 開講時間：午前9時30分～午後3時30分</p> <p>③ 会場：川越市民会館会議室・やまぶき会館会議室他</p> <p>④ 受講料：4,000円</p> <p>⑤ 受講対象者：川越市在住(在勤) 55歳以上</p> <p>⑥ 修了資格：12回の講座中10回以上受講した方には修了証書授与</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <p>① 講座全体の企画・準備・運営</p> <p>② 受講生に対する支援・指導</p> <p>③ 全体の安全管理</p> <p>川越の役割</p> <p>① この事業に対する財政支援</p> <p>② 講座全体の企画・運営に対する助言</p> <p>③ 会場・講師陣確保に関する支援ならびに受講生募集に関する支援(市・広報に募集要項の掲載・募集受付等)</p>
事業の成果	<p>① 市の後援・協働事業であり多数(40名)の受講者を得られた。</p> <p>② 昨年までと違い、途中で退塾する方が少なく(1人)熱心な受講生が多かった。</p> <p>③ 各講師の講座内容が良く、わかりやすく好評でした。</p> <p>④ 研究熱心な受講者が多く、学習成果発表が充実していた。</p> <p>⑤ 今年度も『小江戸塾』に多数の入会があり、一段と層に厚みを増した。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>平成24年度・25年度・26年度と3年間、協働事業として実施してきたが、協働事業の契約期限が切れる平成27年度は、『小江戸塾』で資金を拠出して、「ふるさと塾」を開講する予定です。</p> <p>その場合、川越市としてのご協力(会場の確保・講師の紹介等)を要請するものです。</p>

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化支援事業
団体名	アルテクルブ
市担当課名	都市景観課
事業の目的	川越は、観光の「まち」として昨今多くの人を訪れるようになりました。そこで観光と融合しながら、市民がまちづくりに取り組んできたプロセスや歴史的建造物の活用、また川越の豊富な歴史や芸術資源を積極的に発信し、アートを媒介としたさまざまな人と文化の交流による新たな「まちづくり」を提案するものです。
事業の実施内容	『あるってアート2014 petit ミュージアムロード to 織物市場 & アートクラフト手づくり市 in 織物市場』の開催 ○実施期日：平成26年11月15日（土）、16日（日）10：00～15：00 ○実施場所：旧川越織物市場 ○来場者（2日間）約2,500人 川越市立美術館創作棟で小学生のワークショップで作成したアートフラッグを、立門前通りの商店の店先に飾り、「ミュージアムロード」として、ふれあいと賑わいを創り出す場所として展開しました。旧川越織物市場では、休憩所と「アートクラフト手づくり市」として、アーティストの作品発表、販売の場とし、旧川越織物市場の実験的な活用提案を行いました。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 NPOアルテクルブの定期的活動において獲得したアーティストの人材を活かし、観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化に寄与する
	川越市の役割 開催場所提供、広報、情報提供
事業の成果	来場者アンケートでは、毎年の開催や年に数回の開催を望む声が多く、また今回出店できなかったジャンルのアーティストの参加を望む声も多く寄せられました。作り手の顔が見え直接話しができ、自分だけの一品にめぐり会える、そんなクラフト市の、人（心と身体）と環境に優しいアーティストの仕事は、私達の日常を豊かで楽しいものにします。何度も何度も見て回る若者達、フラッグWSに参加した小学生がご父兄と来場し、自分が描いた作品の作家さんと出会ったこと。移動カフェのコーヒーや粟ぜんざいで暖を取りながら長い時間を過ごす年配の方々、アーティスト同士の交流など、訪れた市民や観光客の人々が欲する場所がここにありました。また明治43年に建設された「旧川越織物市場」は、かつて織物と人々が行き交う川越の織物文化を支えた場所でしたが、住宅として転用され、平成13年にマンション計画が公表されたのを契機に保存運動が起こり、平成14年建物は市の所有となりました。いつの時代にも、その時代のデザインの息吹を現し伝えようと残されてきた歴史的建造物の活用につながるよう、アルテクルブでは数年にわたり様々なアートの展開により、それらの空間特性を示してきました。今回の開催では、「川越織物市場の会」の皆さんによる豚汁のサービスや商店街の書店の臨時ショップが開かれ、同会編集による「川越 商都の木綿遺産」と川越祭りのDVDの販売も行われました。また、運営スタッフとしての多数の大学生の参加もあり、アートクラフトを介在にした幅広い交流が生まれ、地域のなかで歴史的建造物を活用していこうという機運を感じる開催となりました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業として継続する場合、所管する課の問題点は何処にもありません。使用する旧川越織物市場の敷地と建物については、課題があります。今後の課題とは思いますが①トイレの設置②あと数部屋の室内を使用できるとありがたい。③全体で使用できる電気容量を増やしてほしい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	助成が無いと事業が成り立たないので、他の補助金を申請します。



# 平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業
団体名	河越館の会
市担当課名	教育総務部 文化財保護課
事業の目的	この「河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業」は「河越館の会」を中心に、市の文化財保護課および文化財保護協会のご指導を得ながら、市民の史跡や文化財への理解を深めることを目的としています。
事業の実施内容	<p>① ミニシンポジウム「掘り出された板碑と中世の川越」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日時：2014年9月28日（日）午前11時～午後4時</li> <li>・実施会場：川越市立博物館</li> <li>○報告1「中世墓と出土板碑—毛呂山町崇徳寺跡の調査から—」 講師：佐藤春生（毛呂山歴史民俗博物館）</li> <li>○報告2「岩崎邦男氏のライフワークとしての板碑調査」 講師：鈴木邦照氏（川越市立博物館）</li> <li>○報告3「板碑に見る中世人の信仰と習俗」 講師：中西望介（元川崎市文化財調査委員）</li> <li>○報告4「河越館跡出土の板碑—廃棄と再利用について—」 講師：平野寛之（川越市教育員会）</li> </ul> <p>② シンポジウム「平泉と中世の川越」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日時：2015年2月28日（土）午前10時～午後4時</li> <li>・実施会場：川越西文化会館</li> <li>○基調講演「河越重頼女子と源義経について」講師：入間田宣夫（東北大学名誉教授）</li> <li>○講演「衣川—義経夫婦のいた場所」講師：岡 陽一郎（東北学院大学講師）</li> <li>○講演「かわらけに見る河越と平泉」講師：田中 信（川越市立博物館長）</li> <li>○パネルディスカッション 司会：酒井紀美（元茨城大学教授）、落合義明（山形大学准教授）</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 私たちは、国指定河越館跡を中心に、どのような歴史的動きがあったかを学び、それを一般市民の方々に情報を提供していきます。さらに、地域の歴史や文化財の大切さを理解し、史跡や文化財愛護・保存への関心を深めるようにしていきたい。</p> <p>川越市の役割 企画・活動を広報川越での紹介。市の後援。シンポジウム・講演会への参加。史跡公開への配慮。</p>
事業の成果	<p>①9月28日のミニシンポジウムには83名の参加を得て盛会であった。川越地区周辺で多く存在する板碑について、地元の研究者たちから解説いただいたことは大いなる意義があった。</p> <p>②2月28日のシンポジウムには310名の参加があり、大盛況であった。昼休みに実施した、「河越館跡」の見学会には150名ほどの参加があり、史跡を熱心に見学していただいた。出土品の展示室にも多くの見学者があった。県外や川越市以外の県内各市からの参加者が多くあった。特に、河越館跡の地元である名細、霞ヶ関地区からは、自治会の協力もあって100名以上の参加があり、「河越館跡」への関心を大いに高めたとと思われる。講演の中で取り上げられた、「河越氏女子と源義経について」は多くの議論を呼び盛り上がった。「かわらけ」についての理解は素人の私たちにもよく理解できる機会となった。</p> <p>このたびの事業は川越市民の歴史・史跡・文化財への関心を大いに高めるきっかけとなり、その目的は十分に果たせたと思います。「河越館の会」への入会希望者も5名程度申し出があった。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>講演会等の開催において、会場設定と集客の為に広報手段、集客数の事前把握のための準備が課題である。</p> <p>会の原資が乏しいため、協働事業補助金が事業経費の50%の現状では講師報償費のあまり掛からない方法を選ばざるを得ない。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	「河越館の会」の資金は少ないので、市民向け講演会等は公民館等と協力して実施したい。なお、今後の「河越館跡」発掘調査には注目し、その成果を活用したい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「美術の街・川越」推進事業
団体名	エリトア編集部
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	川越では古くから多くの美術家が住み、市内で発表を行ってきましたが、それらが包括的に紹介されることはありませんでした。「美術の街・川越」推進事業（仮称）では、市内で行われる良質な美術展のマップを作成し配布することで、川越を訪れた人々に市内観光と併せて美術店巡りを楽しんでいただこうとするものです。また市民の方々には、数多くの美術家がしないで活動を行っていることを知ってもらい、芸術文化の街としての誇りをさらに高めていただきます。
事業の実施内容	<p>○市内において美術作品の展示活動を行っている個人や団体等の調査 「さいたま美術展＜創作＞プロジェクト」の実施により県内全般における美術展の開催状況を紹介してきた、NPO法人コンテンポラリーアートジャパンの協力を得て実施した。マップに掲載する展覧会は、実績ある美術家または団体が中心となって行われる展覧会であることを原則とし、実績の評価については、市立美術館学芸員の助言を受けながら判定を行った。</p> <p>○芸術の秋に市内で行う展覧会を一覧にし、会場位置を記した地図を併置した印刷物を作成（配布期間：9月から12月） 印刷物は、掲載した展覧会の会場（10か所）、掲載したカフェ・雑貨店（20店舗）に設置したほか、駅にある観光案内所をはじめ、市の協力を得て公共施設（約50か所）に設置。また県内の美術家、関連施設・団体等に郵送したほか、当団体がこれまで冊子を配架してきた場所（首都圏を中心に美術関連施設200か所）に置いた。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割：美術家、美術団体、展示会場、および事業内容の調査、印刷物の作成・配布</p> <p>川越市の役割：紹介団体選定に関する助言（市立博物館）、公共施設における印刷物の配架、広報川越での紹介</p>
事業の成果	川越市内で行われる展覧会・アートイベント等を掲載し照会したことで、これまであまり知られていなかった川越のアート情報を首都圏をはじめ全国のアートファンに紹介するきっかけを作ることが出来ました。また、観光案内所等に設置したことで、観光目的で訪れた方にもアートのスポットをお伝えでき、川越の新たな魅力を紹介することが出来ました。併せて市内の店舗・雑貨店を掲載することにより、店舗同士の交流も生まれ、自店に訪れた客を他店にも紹介するなどの連結も生まれました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	市内で行われる他の団体が主催するイベントと連携し、よりたくさんの情報を紹介できるマップにする。他の団体との連携を深める。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	予算を確保し、継続を検討中。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成26年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「育て、igoまちキッズ！」事業（子どもに対する囲碁普及事業）
団体名	川越igoまち倶楽部
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	社会全体で子どもを育てるという考え方に立ち、知的ゲームである囲碁を通じ、集中力・思考力・構成力・決断力・変化への対応力・忍耐力といった、子どもの生きる力を育む。また、世代を越えた人たちとの交流による学びによって人間性を育み、健全育成に貢献することを目指す。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「夏休み囲碁講座」：コープみらいと連携し、親子を対象にした囲碁教室を7月30日に開催した。ルール説明と対局を通じて囲碁の面白さに触れてもらった。</li> <li>●「やさしいigo講座」：初心者対象の囲碁講座を11月3日に実施した。プロ棋士による講座やチーム対抗戦などを行った。</li> <li>●「igoまちキッズクリスマススペシャル」：子ども囲碁教室の特別企画イベントを12月14日に実施した。プロ棋士による楽しいお話や練習対局、ピアノ演奏やクリスマスソングの合唱などを行った。</li> <li>●囲碁マスコットキャラクターの展開：マスコットキャラクターの名前を投票で決定するとともに、名前入りの缶バッジを製作し、子どもたちに配布した。</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの生きる力を育み、健全育成に寄与する</li> <li>●日本の伝統文化である囲碁の普及活動により、小江戸川越に新たな伝統文化の機運を醸成する</li> </ul>
	<p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市民に対する情報提供、市の関係各課との連絡調整</li> <li>●本事業の目的達成に向けたアドバイス</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夏休み囲碁講座では、子どもと保護者約20人が参加し、囲碁のルールを覚えた後、すぐに対局、囲碁の面白さを実感してもらえた。参加者のうち数人が定例の囲碁教室に申し込んでくれた。</li> <li>●11月の「やさしいigo講座」は、第3回「川越囲碁まつり」と同日に実施し、約50人が参加した。プロ棋士がやさしく囲碁のルールを解説し、その後チーム対抗の連碁を行うなど、ゲーム感覚で楽しく囲碁に触れてもらった。ここでも参加者のうち数人が囲碁教室に申し込んでくれた。</li> <li>●12月のクリスマススペシャルは通常の囲碁講座、練習対局の他、音楽に合わせた早碁パフォーマンスや音楽家によるピアノ演奏など、様々な趣向を凝らして実施、楽しみながら囲碁に親しんでもらえた。参加者は約80人。</li> <li>●囲碁マスコットキャラクターの展開では、5月の囲碁イベントでネーミングを募集したところ、303点の応募があった。その中から名前を選定、名前入りの缶バッジを220個製作、イベントや囲碁教室で子どもたちに配布したところ、大変好評であった。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>定例の子ども囲碁教室は、8月に3つの小学校に働きかけを行った結果、順調に生徒数が増加、現在の登録者数は66人に達している。今後、生徒増と、棋力を付けた子どもたちに、どう対応していくか、教室運営を含め、検討が必要である。</p> <p>囲碁スタッフの指導法の充実と、カリキュラムの検討を行い、子どもたちが楽しく囲碁を続けられる環境づくりに努めるとともに、教室としての質を高めていく。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	補助金終了後も、他の補助金や会費収入、協賛金・寄付金等を財源として、子ども囲碁教室を継続していく方針である。